

# 道徳科学習指導案（3年2組）

令和3年10月7日（木曜日）13：30～14：20 3の2教室

- 1 主題名 弱さと向き合って〔D（22）よりよく生きる喜び〕
- 2 教材名 足袋の季節（出典：新訂 新しい道徳3 東京書籍）
- 3 ねらい おばあさんを裏切った許せない自分を受け止めながら、前向きに生きる主人公の姿に共感し、自らの弱さや醜さを克服する強さをもち、人間として気高く生きるための道徳的な判断力を育てる。

## 4 主題設定の理由

### (1) 教材観

本教材では、足袋がほしいあまりに餅売りの老婆から釣り銭をごまかしてしまい、後悔と自責の念を抱くことになってしまった主人公の判断を生徒の日常生活と重ね合わせて考えさせる。老婆の死を知り、自分の弱さを謙虚に受け止め、前向きに生きていこうとする主人公の姿に共感することを通して、弱さと向き合い、その弱さを克服して強さに変えることで、よりよく生きる喜びにつながる道徳的価値の理解を深めることができる。また、他者の意見や判断を基に議論することを通して、多面的・多角的に考え、よりよく生きる喜びについて、人間として気高く生きるための道徳的な判断力を高めることができる。

### (2) 生徒観（男子17名、女子16名 計33名）

中学生の時期は誘惑に負けたり、楽な方に流れたりする傾向がみられる。本学級においてもアンケート結果から、ほぼ全員に失敗した経験があることが分かった。しかし、その後の対応やどのように気持ちを切り替えればよいのかを考えて、行動できる生徒は多くない。

これまで、教育相談などの個別指導や短学活での全体指導において、弱い自分を克服するためには、どのような考えや行動が必要か考えさせた。このような指導を通じて、生徒は失敗や自分の弱さを自認し、それを克服しようとしてきた。しかし、まだ自分の弱さを克服して強さに変えることや強さに変えることで自分に誇りをもつことができ、人間として生きる喜びに気付いている生徒は少ない。

そこで、本時の道徳科の授業では、自己の弱さと向き合い、その弱さを克服して強さに変えることで、よりよく生きる喜びにつながるように道徳的に考え、判断する力を高めたいと考える。

### (3) 指導観

- ・導入では、生徒のアンケート結果を基に課題を設定することで、課題について自分事として問題意識をもたせることができるようにする。さらに、授業の開始時に課題に対する自分の考えを書かせることで、授業終了時と比較して自己の生き方に生かせるようにする。教材の時代背景や主人公が置かれている自然環境や生活環境について場面絵をタブレット端末で共有することで、イメージ豊かに教材の中に入り込めるようにし、本時の課題に関わる問題意識をもたせることができるようにする。
- ・展開では、主人公の弱い部分に焦点を当て、自分が主人公だったらどのような行動するかを、タブレット端末を用いて全体に共有して、迅速に他者の意見と自分の意見を比較することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。さらに、主発問を基に主人公の生き方について議論し「教材との対話」「他者との対話」「自分との対話」をさせることで、弱さと向き合うことについて自分との関わりで捉えることができるようにする。
- ・終末では、課題や自らの考えを振り返らせることで、弱さと向き合うことで自己の気高さや強さに変える判断ができるようにしたり、広い視野で見つめ、目指す生き方や誇りある生き方に近付けるように考えを深めたりすることができるようにする。

5 本時の展開

	学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
導入	<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <p>○アンケート調査から自分や他者の弱い部分を知ること、誰にも弱い部分があることを共有する。</p>	<p>○本学級の生徒のアンケート調査を基に紹介することで、自己の弱さと向き合い、克服することについて自分事として考えられるようにする。</p>
	<p><b>課題：弱さを克服し、よりよく生きるためには、どのような行動が必要なのだろう？</b></p>	
展開	<p>○課題に対する自分の考えを書く。</p> <p>・自分が強くなること。</p> <p>・しっかり自分の意志をもって行動すること。</p> <p>○教材「足袋の季節」(前半)の範読を聞く。</p> <p><b>【状況】</b></p> <p>・大正時代末期の話であり、主人公は北海道の小樽の郵便局で働いていたとき、とても貧しい生活をしている。収入の大部分が世話になっているおばにとられて、雪の中を素足で通勤している。</p>	<p>○課題に対する考えを書かせ、授業終了時の自分の考えと比べられるようにすることで、道徳的価値を自分の生き方に生かせるようにする。</p> <p>○タブレット端末を用いて場面絵を全体に共有することで、教材に入り込みやすくする。</p> <p>○主人公は自然環境も生活環境も非常に厳しいところで暮らしていることを捉えさせることで、展開での主人公の気持ちに共感できるようにする。</p>
	<p><b>2 教材「足袋の季節」を通して「弱さと向きあうこと」について考える。</b></p> <p>○道徳的価値について、自分なりの考えをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おばあさんは「私をごまかしているのを知っているのだ」と気付いても、なぜ主人公はお金を返せなかったのだろう。</p> <p>・このお金があれば、足袋を買うことができるから。(甘い考え)</p> <p>・正直に言わなければだけど、足袋もほしいから。</p> <p>○自分だったらどのような行動をするかロイロノートでカードを提出して、議論をする。</p> <p>○教材「足袋の季節」(後半)の範読を聞く。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">主人公が、「今度はだれかにさしあげなくてはならない」と考えたのはなぜでしょう。</p> <p>・自分と同じ思いをする人を少なくするため。</p> <p>・今後は自分も弱い人に手をさしのべられようになりたいから。</p>	<p>○自分の生活を振り返らせながら、主人公の弱い部分に焦点を当て考えさせることで、弱さと向き合うことについて考えを深められるようにする。</p> <p>○ロイロノートのカード機能を活用して、自分が主人公だったらどのような行動をする判断させ、全体で共有することで、他者の意見から多面的・多角的に考え、根拠となる道徳的価値について議論を深めることができるようにする。</p> <p>主人公と同じ行動をする人…ピンクのカード 主人公とは違う行動をする人…水色のカード</p> <p>○自分だったらどうするかという、補助発問を行うことで、自分との関わりで考えさせる。</p> <p>○後半部を読み、主人公の行動について補助発問を行うことで、中心発問につなげられるようにする</p> <p>●補助発問：主人公は、なぜおばあさんのところに行ったのだろう。</p> <p>○主人公の行動の理由を議論することで、前半の自責の念や自分の弱さなどと向き合う主人公の強さに、人間として生きる喜びに気付かせる。</p>
終末	<p><b>3 課題を振り返り、これからの自分について考える。</b></p> <p>○課題やこれまでの自分を振り返り、これからの自分についてワークシートに書く。</p> <p>○振り返りを無記名で記させ、全体で共有をする。</p>	<p>○課題を振り返ることで、これからの生活で弱さと向き合うことで自己の気高さや強さに変え、誇りある生き方に近付けるようにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>【評価の視点】</b> 自己の弱さを克服し、人間として気高く生きることについて、自分との関わりで捉え、よりよく生きることについて考えていたか。(発言・ワークシート)</p>
<p>[多面的・多角的なものの見方]</p> <p>・弱い部分をもっているのは自分だけではないということが分かった。人は誰でもよさをもっていることを認め、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていきたい。</p> <p>[道徳的価値の深い理解]</p> <p>・人間はどうしても弱い部分があったり、簡単な方に流れてしまったりするということが分かった。もし、自分の弱さが出てしまったら、それを強さに変えて、自信をもって生活していく判断ができるようにしたい。</p>		
<p>〈「学びの質」を高めるための具体的な手立て〉</p> <p>・対話を深めるための思考の可視化・意見の共有</p>		